

教学设计

初級中学向け：擬声語・擬態語

言語学習目的：

- 日常よく使われる日本語の擬音語・擬態語を覚える。
- 日本語のリズム感覚を身に付ける。
- 日本語の擬音語・擬態語の豊富さの一端を知る。

言語以外の学習目的：

- 擬音語の日中比較を通して、言語が違っていると、同じはずの音が違って聞こえることを知る。

使用時間：30分

用意するもの：模造紙／小黒板

● 事前準備

「がちょう があがあ」の表を模造紙または小黒板に書いておく（別紙参照）。

● 授業の進め方

1. 導入

- (1) 次の質問をして、動物の鳴き声について、生徒に考えさせる。

発話例

- ・皆さんの身近にどんな動物がいますか。
- ・イヌ、ネコ、小鸡……

- (2) 生徒が挙げた動物の鳴き声を中国語で言わせる。

発話例

- ・その動物の鳴き声を中国語で言ってください。
- ・汪汪、喵喵、叽叽……

2. 日本語の擬音語について学ぶ

- (1) 予め用意した「がちょう があがあ」の表を生徒に見せる。

- (2) ①'～⑦'の動物の鳴き声を表す中国語を生徒に言わせて、教師が表に書き込む。

ヒント

この時、まだ日本語の言い方や、A～Kの擬態語について触れない。

- (3) ①'～⑦'の言い方を確認した後、それぞれに対応する①～⑦の日本語の言い方について考えさせ、表のメモ欄に書かせる。正しい言い方や表記の仕方を知らなければ、想像でことばを作ってもいいと生徒に伝える。また、同じ欄に複数の生徒が違う答えを書いてよい。

板書例：

汉语	日语	※	日语	汉语	备注
鹅	がちょう	は	があがあ①	嘎嘎地①'	
乌鸦	からす	は	②	呱呱地②'	ぐあぐああ、ぐーぐー

- (4) 教師は①～⑦の正しい言い方を表の中に書き込んで、答えあわせをする。

答案

- ②かあかあ ③ほうほう ④もうもう ⑤げろげろ ⑥わんわん ⑦やんにやん ⑧ぶーぶー

ヒント

この時、「あっている!」「間違った!」という確認で終わらせるのではなく、生徒が自分の考えた言い方、日本語の言い方、中国語の言い方を比較させ、その異同を発見させることが大事である。

- (5) 次の発話をして、日本語の擬音語の概念をまとめる。

日本語では、このような実際の音をまねて言葉にした語を「擬音語」と言います。ここでは、①～⑧のような動物の声以外に、⑨のような物事（こと）の音を表す語も擬音語です。

3. 日本語の擬態語について学ぶ

- (1) 次の発話をして、擬態語の勉強に移る。

示范

①から⑨の音を表す言葉に似た言葉の形として、AからJのような言葉があります。これは物事の様子を表す語で、「擬態語」といいます。

- (2) A～Jの言葉はどんな様子を表すか考えさせ、中国語で説明させる。想像で言ってもいいと伝える。

ヒント

想像が難しく、なかなか正解に近づけない場合、教師は必要に応じて、身振り手振りや絵を用いてヒントを出してください。絵はその場で黒板に描いてもいいし、予め紙に描いて用意してもよい。

- (3) ある程度生徒の発話が出たところで、教師は正解をA～Kの欄に書き込んで、生徒に確認させる。

答案

A'：一吐一吐的 B'：呼哧呼哧地 C'：哆哆嗦嗦、颤动 D'：一张一合的 E'：滴滴答答地直往下滴 F'：渴得冒烟 G'：大口大口地 H'：肥肥大大的 I'：松松的 J'：粘糊糊、滑溜溜的

4. 詩を朗読して、日本語のリズムに慣れさせる

- (1) 表の黒枠の中を完成させてから次の発話をし、詩の朗読活動に移る。

発話例

これは和田誠さんの書いた詩集『パイがいつぱい』（文化出版局、2002年）に収録されている詩の一つです。擬音語・擬態語の勉強になりますし、リズムもいいので、みんなで朗読してみましょう。

- (2) 教師の後について、一文ずつ復唱させる。

- (3) 教師が一文ずつ助詞のところまで言って、生徒に残りの言葉を言わせる。

- (4) 生徒に列ごとに一文ずつ言わせる。

- (5) 最初の列に助詞まで言わせ、次の列に残りの部分を言わせる。

- (6) クラス全体で全文を通して朗読する。

ヒント

この活動で最も大事なことは、リズムに乗ることです。2音単位で手拍子を打つとリズムが掴みやすいでしょう（□で囲んだ音のところを手拍子）。日本語には拍があり、1拍1拍は同じ長さで発音すること、促音、拗音、撥音は1拍、長音は2拍であることを確認する。

例：がちょうはがあがあ からすはかあかあ

- (2)～(6)のいずれの形式でも、みんなの声が揃っていて、リズムカルに朗読できることが最終目標です。また、課外に暗記させて、授業の始まりなどに、暗唱で(4)～(6)の活動をするのもいいでしょう。

言語学習目的：

- 俳句、川柳、短歌の表現式を知り、内容を理解し、簡単なものが作れるようになる。
- 5・7・5または5・7・5・7・7音のリズムに慣れ、日本語の感覚を身に付ける。

言語以外の学習目的：

- 漢詩や漢文が日本語に与えた影響について知る。

- 俳句や川柳、短歌が表現している世界を味わい、その芸術性を発見したり、作者のものの見方や心情に共感したりしながら、鑑賞力、想像力を養う。

使用時間：45分

用意するもの：「今日日本」、小黑板または模造紙

中高校教科書『日語』（人民教育出版社）9年級下冊付録（読解文3：俳句）、第2冊第6課（コラム：日本俳句在中国）、第12課（コラム：日本的歌舞伎）

● 事前準備

- (1) 授業の1週間前に「今日日本」を教室の壁に張って、次の授業で勉強すること、内容についての質問をすることを告げ、全員読んでおくように指示する。
- (2) 次の授業で発表してもらうので、「今日日本」で紹介されている早口言葉の中から好きなものを一つ以上選んで、充分練習しておくように指示する。

● 授業の進め方

1. 導入

- (1) 口慣らしと雰囲気作りに、生徒に早口言葉の発表をさせる。

ヒント

一人ずつ立たせて順番に言わせてもいいし、同じ文を選んだ全員を前に出させて順番に言わせてもよい。この場合、誰が上手に早く言えたか、聞いている生徒に挙手で評価させてもよい。また、「今日日本」で紹介していない早口言葉を知っている生徒には発表させてもよい。

- (2) 生徒に「今日日本」で紹介された以下のことについて分かったこと、発見したことを説明させる。中国語でもよい。

2. 短歌、俳句、川柳を味わう

- (1) 短歌、俳句、川柳の特徴を生徒に説明させ、理解できたかどうかを確認する。確認したポイントを黒板に書く。

ヒント

できるだけ日本語で説明させ、日本語で説明できないところは中国語で言わせてもよい。その場合、教師は中国語に対応する日本語の言い方を示し、関連する表現を導入する。また、板書で日本語の言い方を再確認する。

- (2) 下の表からいくつか選び、アトランダムに黒板に書き、次の質問をして、俳句の季語についての理解を深めさせる。

発話例

俳句では普通、季語を使います。黒板に書かれた季語はどの季節を表すか、当ててください。

春：霞 水温む 雛祭り 蛙 梅の花 入学

夏：浴衣 ハンカチ 雷 プール 金魚 朝顔

秋：月見 台風 柿 紅葉 虫の声 稲

冬：小春 除夜の鐘 霜 スキー クリスマス 白菜

- (3) 「今日日本」で紹介された作品を鑑賞する。

- ①紹介された作品を一通り先生の後について読む。

ヒント

最初は5・7・5・7・7の切れ目で区切って読む。次に上の句(5.7.5)と下の句(7.7)に分けて読む。最後に全句を通して読むとよい。また、読みながら各自一音ずつ指折り数えたとリズムが分かりやすい。この時、長音が2拍(指折り2回)、促音(っ)、撥音(ん)、拗音(ぎゃ、ぎゅ、

きょなど)が1拍(指折り1回)であることに気をつける。正しく拍を数え、1拍1拍を同じ長さで発音し、5・7・5・7・7の切れ目で少しのポーズ、上の句と下の句の間ではもう少し長めのポーズを置く気持ちで読めば、俳句、川柳、短歌らしいリズムになるということを、生徒が実感できることが目標です。

- ②それぞれの短歌について、どんな状況と気持ちのなかで歌っているかを想像し、それに対して自分はどう思うか、生徒に言わせる。

- ③それぞれの俳句の中から季語を探させ、どんな情景が目浮かぶか、作者のどんな気持が読み取れるか、それに対して自分はどう思うか、を生徒に言わせる。

答え カマキリ、天高し、柿：秋 蛙：春、真ん中は季語なし

- ④それぞれの川柳について、なかが面白いかな、を生徒に発表させる。

- (3) 短歌、俳句、川柳のいずれかを選択させ、作品を作らせ、自分のノートに書かせる。

- (4) できた作品を1、2人に発表させる。教師はリズムが合っているかどうかを確認する。そして、どういう気持ちを歌ったものかについても言わせる。

- (5) 作品作りを宿題にして、後日提出させ、みんなの作品を教室に張って公表する。

ヒント

生徒に1人1枚評価シールを渡し、一定の期間を決めて、好きな作品に張るように指示し、人気のある作品、優秀作品を選出させてもよい。

2-(1)のポイント

	リズムの特徴	由来・約束事・テーマ
短歌	「五七五七七」の5句31音からなる叙情詩	・7世紀半ばに確立。 ・特に決められたルールはない。 ・テーマは制約がなく、恋や日常生活、子供の成長などさまざまである。
連歌	「五七五」の長句と「七七」の短句を交互に繰り返したもの	・短歌と同じ頃に確立。 ・短歌の上の句と下の句を交互に数人で詠み合うもの。 ・江戸時代からユーモアや風刺を取り入れたものが盛んになり、口語が用いられたため、庶民の人気を集めた。
俳句	「五七五」の3句17音	・江戸時代、松尾芭蕉が連歌の上の句だけを独立させて、「俳諧の句」として確立させた。明治時代に、正岡子規が「俳句」と名付けた。 ・季語を含み、いろいろな技法(切れ字や体言止など)が用いられる。 ・自然や季節の移り変わり、人間の喜びや悲しみを表す。
川柳		・江戸中期頃から流行。 ・季語や切れ字の制約がなく、口語を用いる。 ・人生の機微や世相、風俗を滑稽に、また風刺的に描写する。

言語学習目的：

- トップダウン式読解方法を身に付ける。
- 理由を問う質問に対して適切な文型で答えられるようになる。
- 伝聞の「そうだ」が使えるようになる。

言語以外の学習目的：

- 「寿限無」という落語を通して、子どもの幸せを願う親の気持ちは万国

共通であること知り、自分の名前に込められた親の思いを振り返る。
● 日本の伝統芸能「落語」に親しみ、これに似た中国の伝統芸能との比較を通して、日中文化のつながりについて考える。

使用時間：45分×2コマ+宿題

用意するもの：「今日日本」、付録「落語：寿限無」

● 事前準備

- (1) 授業の1週間前に「今日日本」を教室の壁に張って、次の授業までに読んでおくように指示する。特に「声に出して読もう」の「寿限無」をノートに写してもらい、流暢に早く読めるように練習したり、暗記でき人は暗記したりするように指示する。
- (2) 教師は「落語：寿限無」を流暢にテンポよく、声に脚色をつけながら読めるように、予め十分に練習しておく。

● 授業の進め方

【1回目の授業】

1. 導入

授業のはじめに、「今日日本」の「声に出して読もう」で紹介された「寿限無」を、ペアになって交互に1回ずつ発表させる。その後、数人の生徒に暗記または練習の成果を全員の前で発表してもらう。

ヒント

ノートを見て読んでも、暗誦してもよい。また、ここでは、「寿限無」の意味について一切扱わないようにする。「これ、なんだろう」という疑問を生徒の中に残したままにしたほうが、この後の「落語：寿限無」の読解活動が面白くなる。

- (2) 次の投げかけをしてから、「落語：寿限無」のコピーを配付し、読解活動にはいる。

発話例

今、皆さんに発表してもらった「寿限無」は、「落語：寿限無」の一節です。この一節はどんな意味かよく分かりませんね。でも、今から配る「落語：寿限無」を読めば、その答えが分かるはずです。

2. 聴解活動

- (1) 教師は、次のように言って、「落語：寿限無」を通して読んで聞かせる。

発話例

皆さんが練習した『寿限無』は落語の寿限無の一節です。寿限無は何のことでしょう。それを考えながら聞いてください。

- (2) 「寿限無」が何のことかが分かった生徒に答えさせる（答え：赤ちゃんの名前）。
- (3) 次の投げかけをしてから、語彙表現リストを配付し、それを参考にして「落語：寿限無」を各自で読ませ、質問の答えを書かせる。

発話例

なぜこういう長い名前になったのか、それを考えながら、語彙表現リストを参考にして各自黙読して、それから、質問に答えてください。

3. まとめ

- (1) 質問の答えを発表させ、答え合わせをする。
答え：①千年はげち臭いから。②親より早く死ぬから。③期限付きではなく、無期限の名前を要求しました。④妻と相談したいから。⑤由

来が分からないから。⑥いいえ、伝えませんでした。全部忘れてしまったから。⑦今一つに決めても後で後悔するし、どの名前を捨ててももつたいないから。⑧長すぎて、会話しているうちに時間が経ってしまったから。

- (2) 落語「寿限無」について感想を言わせる。

4. 宿題

- (1) 自分の名前は誰がつけたのか、どういう意味と願いが込められているのかを調べさせる。
- (2) 「落語」とよく似た中国の「相声」と「落語」を比較し、その類似点や相違点についてまとめさせる。
- (3) 「落語：寿限無」を熟読し、辞書などを使って、一つ一つの言葉を完全に理解してから、朗読の練習をさせる。

ヒント

「相声」には「単口相声」と「対口相声」があり、「落語」は「対口相声」と似ている。また、「対口相声」と似た形式の日本の芸能には「漫才」がある。

【2回目の授業】

1. 中国の「相声」と日本の「落語」との比較

その類似点や相違点について発表させる。教師はそのポイントを黒板に書いて確認する。

2. 「寿限無」への理解を深める

「寿限無」という名前の中の言葉一つ一つについて、その由来を生徒に発表させ、意味の確認とともに、伝聞の「そうだ」の使い方を確認する。
①寿限無②五劫の擦り切れ③海砂利、水魚④水行末、雲未末、風未末⑤食う寝るところに住むところ ⑥藪ら柑子 ⑦パイポのシューリンガンとグーリングダイ ⑧ポンポコピーとポンポコナー

3. 名付けについてのアンケート

- (1) 生徒自身の名前の由来について、「そうだ」を使って5～6人分発表してもらう。教師はそのポイントとなる言葉を黒板に書いて、確認する。

発話例

- ・私の名前は〇〇がつけてくれたそうです。
- ・～という意味だそうです。
- ・～になってほしいと願ったそうです。

- (2) ペアになって、お互いに(1)と同じ紹介をする。
- (3) ペアを組んだ相手の名前の由来について「そうだ」を使って発表させる。同じくそのポイントを教師が板書して、みんなで確認する。

ヒント

どの名前にも、幸せになってほしいという愛情が込められているはずです。自分の名前に誇りを持つとともに、他人の名前にも敬意を払うべきである、というメッセージを生徒に伝えることが大事。

- (4) 生徒の名付け親について挙手させ統計を取る。教師はその数字を黒

板に書く。

- ①おじいさんやおばあさん〇〇名 ②両親〇〇名 ③親戚〇〇名
④名づけ会社〇〇名 ⑤その他(具体的に聞く)

4. 「落語：寿限無」を朗読する

教法指点

日頃、授業で日本語を習っていると、生徒たちにとって、日本語学習がたんに勉強のための勉強、受験のための勉強になりがちです。今回のテーマ、「いま、日本語がブーム!」の内容を取り上げるときには、自分たちが習っている日本語が、けっして勉強のため、受験のためのものだけではなく、ことばの面白さおかしさを楽しむことも含め、日本の人々の日常生活や文化、社会の中でさまざまな形で親しまれていること、そして漢詩・漢文をはじめ歴史的、文化的に中国と切っても切れないほど深くつながっているのだということを生徒たちに意識させるよう心がけたいものです。

まず、擬音語・擬態語の活動では、日本語と中国語と比べて共通する点、ちがう点に気づくことが一番のポイントです。日本語の学習を通じて、自分のことばについての理解を深める・意識することも外国語学習の持つ大きな意義だと言えます。クラスの中で、「へえ日本語ではこんな言い方をするんだ」「この日本語の発音、おもしろいね」「こっちは、中国語のほうがもつと本物らしく聞こえるよ」など、生徒たちが自由に言い合える雰囲気を作れるようにしましょう。

近年、音読の効用として、声を出して読むことによって脳を刺激してその働きを活発にするということが言われています。これは、黙読したりパソコンでウェブページを閲覧したりという場合には起きない効果だそうです。したがって、教室活動の一つとして、この「がちょうがあがあ」の詩のように、リズムよく音読させる活動を取り入れるのもよい方法と言えるでしょう。授業では常に、大きな声を出して読む活動と一人黙って静かに読む方法を、学習の目的に応じて使い分けることが大切です。

次に、俳句・川柳・短歌を味わう活動についてです。俳句も川柳も短歌もともに、古い歴史と伝統を持つ芸術ですが、現在でも、毎朝の新聞

- (1) 三人1組になって、読む役割を決めさせる。①地の文+かみさん+近所の子ども役を読む人②八五郎役を読む人
③和尚さんの役を読む人
(2) 役割どおりに「落語：寿限無」を最初から最後まで朗読する。
(3) 挑戦したいグループに全員の前で発表してもらう。

には読者からの俳句や川柳を投稿するコーナーが欠かせません。また、今、日本の学生や若者の中には、携帯電話を使って短歌を創作してラジオ局や雑誌に投稿するという「ケータイ短歌」を楽しむ人も少なくないようです。インターネットからも作品を送ることができるようですから、皆さんの生徒の傑作を投稿してみてもどうですか。(参照：土曜の夜はケータイ短歌 <http://www.nhk.or.jp/tanka/>) 生徒たちが指を折り折り字数を数えながら詩作りに夢中になると日本語の学習意欲も一層高まるかもしれません。

最後に、「落語を読む・楽しむ」の活動について見ましょう。活動例の一つとして、どうして赤ちゃんの名前を「寿限無、寿限無、五劫の... (とても長いので省略しますが)」にしたのか、その理由を見つけるために文章を読ませる活動があります(1回目の授業の2. 聴解・読解活動)。このときのポイントは、一人黙って静かに読ませるということです。ですから、授業までに、生徒に全文を暗記させておく必要はありません。読む前に、教師が音読して、クラス全体が後に続いて繰り返す必要もありません。また、まず教師が全文を訳して解説する必要もありません。ここで必要なことは、生徒は一人一人、教師が提示した課題の答えを得るために読まなければならないということです。ここで与える課題は、10も20もある必要はありませんし、そんなに多くあつてはいけません。知らない単語、難しい表現もたくさんある中で、与えられた課題を解決するために読もうとする、そのときに生徒のトップダウン式読解力が養われます。

有馬淳一
国際交流基金日本語国際センター専任講師

合作学习和人文素养

在外语交际性的练习活动中,我们提倡合作学习,这是完成任务的需要。合作的观念在学习中会对学科形成积极的促进作用,在培养学生的人文素养方面起着十分重要的作用。

合作是人类在生存中互相发挥作用的基本形式之一,国家和世界的进步都需要各方面的合作。合作学习、合作完成任务型的交际活动可以发展学生的多种能力,所学的知识、技能用于和他人的合作性的互动之中,才能真正地体现知识、技能的价值。在社会生活中,人们的生活就是分工、合作、协助、交流。合作学习、合作完成任务可以使学生会学、善于学、乐于学。

口语交际运用有声语言来实现传情达意的目的,有声语言是通过听和说的活动具体体现的。口语交际必须听和说,“听话”既可以训练对“说话人”的尊重(听时的神态,视线的朝向、体态语等),又可以训练“听话人”接受信息的技能(快捷、正确、选择重要信息、储存、临场应答的准备)。“说话”既可以训练对“听话人”的礼貌(说时的表情,语气、眼神、音量的大小、体态语等),又可以训练“说话人”传递信息的技能(逻辑性、自然流畅、简洁、条理性、语汇的选择、节奏起伏、感染力、亲切、贴近生活)。“听话”和“说话”是围绕一个或若干个任务有条理地展开的,由于角色的可变性,可以训练双方的思维敏捷性、应变技能。“听话”

和“说话”的活动需要双方的合作,没有一定的人文素养则很难合作。在合作中培养学生的人文素养是十分重要的,例:“说话人”犹豫时,“听话人”鼓励“说话人”讲下去;“听话人”没有听清楚时,“说话人”耐心地重复。“听话人”和“说话人”的密切合作促进了交流的顺利进行。

合作中有交流、讨论、协商等活动,这些活动有助于学生间的理解,可以培养集体主义精神。团队目标是每个成员的目标,互相合作和依赖、分工负责和个人责任感等都会在完成任务的活动中得到充分体现。同时,活动中必然会产生辅导者和被辅导者,合作完成任务有利于巩固辅导者已学的知识,并促进被辅导者自主学习的欲望。

合作学习、合作完成任务可以把语言的交际性和人文素养的培养紧密地结合在一起,丰富学生的情感,使学生获得交际知识和交际技能、提高待人处事的能力,在合作中逐渐地确立正确的价值观。一个优秀的日语教师必须全面提高学生综合运用日语的能力和培养学生的人文素养。

张国强
中国教育学会外语教学专业委员会 秘书长、日语部部长